

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100583		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉二の宮		
所在地	静岡県富士宮市北町14-5		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosvCd=2272100583-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を常に意識し、お客様とご家族様の想いに寄り添ったケアを行っています。職員は「こまやケア」の行動指針に則り優しい声かけと対応ができ、お客様は笑顔が溢れ生き生きと毎日を過ごしています。医療面では、同法人内の認知症ケアチーム(主治医・作業療法士・栄養士・看護師等)による往診で、多様な指示・アドバイスをもらい対応しております。また、訪問看護師との連携で、異常の早期発見や早い対応ができ、安心した生活を送っています。職員は、日々の業務をISO9001に沿って実施しており、法人研修・施設内研修も含め、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「こまやケア」の推進を旨とし、「笑顔で常に接している」というのが自慢の事業所です。骨折入院から戻ってきた利用者の落ち着きがなくなってしまったケースでは、職員間で話し合った結果、「夜勤者プラスオンコール体制」を整え、実際プラス人員は計3回駆けつけて支援するに至っています。もともと「お互い様」精神が溢れるチームワークが堅固で、ブログアップ率は法人内トップなことからも、職員の意欲の高さが窺えます。「要介護度4、5となると大変ですね」と言われることが増えますが、「高いのは尊厳が守られて暮らしやすく過ごさせている証」と考えて重度化にもプラス思考で取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	湖山医療福祉グループ理念・行動指針、こやまケア行動方針、GH理念を常に頭に置き業務を行っています。全体会議ではテストを行い全員で確認しています。	クレドカードが作成され、また朝礼では「こやまケア」の唱和を繰り返しており、中には暗唱できる職員もいます。検証としての小テストもおこない、職員意識の高低確認の機会とも成っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二の宮区の夏祭り、どんど焼きへ参加。富士宮秋祭りでは二の宮区の手車が来て交流会を開いています。今年度の様子は富士宮の新聞にも掲載されました。	盆踊りへ駐車場を貸し出したり、また事業所秋祭りには地域の皆さんが訪れてと、相互交流が親密で、隣近所のつきあいができており、「有事には駆けつけるからね」との声も届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の富士宮東高校・富士特別支援学校の生徒の実習を受け入れ、職種としての考え方や技術等伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回区長様・民生委員様・ご家族様・市役所担当職員で意見交換を行っています。地域行事のお知らせ、参加の仕方のアドバイス等活発に話し合うことができています。	一時は会議進行にマンネリも感じられ、「ゲストを呼ぼうか」といった向きもありました。現在は参加メンバーがそれぞれ自発的に発言くださっていて、隔月開催を重ねて協議内容が高まっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて二の宮での現状や取り組みを説明しご指導いただいています。また富士宮市小規模ホーム部会の研修会や運動会にも参加しています。	運営推進会議には市役所職員が毎回出席のうえ、事業所のブログを見ての意見も挙げてくださいます。事業所でも富士宮市小規模ホーム部会の運動会等へ積極的に参加し、ヨコの連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを継続しており玄関も夜間以外は施錠をしておりません。スピーチロックにも細心の注意を払っています。また二ヶ月毎に勉強会実施しています。	本年の法改正にともなう研修会(勉強会)、委員会会議などは順次進めています。現在対象となる症状がある利用者はいませんし、あったとしても職員間の連携の下、適正に取組める態勢にあります。	法改正への取組みはありますが、記載方法など見直しが必要かも…と思われる点がありますので、年度末までに整理されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修には必ず参加をし、職員間でも指摘ができるように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料は事務所に置いてありますが理解は十分ではありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を書面を見ながら説明を行い、不明点や不安な点など必ず声をかけて確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人統一でアンケートを実施しております。回収率を上げるために方法を検討したり、法人への回答で率直な意見が聞けるようにしています。また、意見には対応策を検討して取り組んでいます。	家族会は年2回実施され、デザートバイキングなどで盛り上げています。法人が年1回おこなう家族アンケートは回収率44%で、接遇をはじめ「説明があるか」「訪問しやすいか」などの8設問が満点評価です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・職員全体会議・部署会議を行い、職員が意見を言いやすい環境を作っています。	「長期休暇を～」との法人の考えを推進できることも、職員数が満たされていることとチームワークの良さの裏づけであり、本年は8日間連続休暇の人もいます。働きやすさの基盤もあって、進言も建設的です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標シート・実務評価表を使用し年2回の面談を行い賞与・昇給に反映しています。有給の他、リフレッシュ休暇・ハッピー休暇が付与されています。二の宮独自では計画休暇を取り入れ、有給の消化と職員のリフレッシュを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー会議にて職員の育成状況を確認し、法人内研修参加の計画を立てています。研修アンケートで有効性を確認しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士宮市介護保険事業者連絡会に加入し小規模ホーム部会の研修や運動会・新年会などで他事業所の職員との交流や共に学ぶ機会を活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人様やご家族様から希望や要望の聞き取りを行い、ご入居後はご本人様を観察し声をかけています。現在、併設のデイサービスから移行する方が多く、見慣れた建物と職員の顔がある中で安心して過ごしていただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族様に要望や不安なことを聞き、ご入居後の対応方法を伝え、いつでも協力できることを伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接ご自宅に伺い、ご本人様・ご家族様にお会いし、現状を聞き取り、判定会を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯たたみなど生活の中でできることは一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新聞や毎月のお便りで日々の様子をお伝えしています。2回/年家族会を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限は行わずいつでもお知り合いと交流できるようにしています。	「(様子がわかるので)写真をもっと見たい」との家族の声を反映し、百葉だよりを四半期から毎月へと発行頻度を高めています。また新しく入居の利用者は「髪を染めたい」として、従来の理美容を続ける予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな声を出してしまう方もいますが、その方も様子を見ながら職員が間に入り関わっています。お手伝いやレク・手作業などみんなに関わる時間を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されたご家族様からの相談はありませんが、通夜や葬儀には参列しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉での訴えが少ない方が多いので、何気ない言葉や仕草から思いを想像し実現できるように留意しています。	箸では無理とキャッチすればスプーンを用意したり、他人の皿も自分のものだと主張することから食事を追加したり、午後のおやつに思考を動かすなど、本人の想いと現実を上手にフォローする様子を視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様からの聞き取りで毎日の生活に繋がられるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを繰り返すことにより、先入観に囚われず現状を把握できるようにしています。また、健康状態には常に気をつけ、一人ひとりが持つ力を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に毎月部署会議にてお客様のカンファレンスを行い現状を把握しより良いサービスの提供に努めています。	普段の過ごし方がフォーマット化されるとともに、「ご飯はお茶碗半分」との詳細情報が入った「ケアポイント表」を事業所オリジナルで作成していて、個毎の確かな把握の下、介護計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子や気づき・行動等を記録し、朝夕の申し送り時に報告し情報を共有し日々の介護に活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様・ご家族様の要望に応じた柔軟な対応ができるよう意識しています。併設のデイサービスとの連携により慰問や季節行事などを楽しんでいただけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の夏祭り・どんど焼きなどに一緒に参加しています。また、ボランティア・地元幼稚園など交流があり感謝しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2～3週毎に主治医が認知症チームとして往診を行い、栄養士・OT等専門職からの指導やアドバイスをもらい、元気に過ごせるよう健康面で支援しています。	医師（認知症ケア専門医）、作業療法士、看護師の3名が月2回の訪問診療に訪れています。医師の立会いは計画作成担当者がおこない、OTや看護師の指導も併せて記録に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週 訪問看護師が来所しお客様の状況を伝え、観察することで現状を把握しアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はできる限り職員が病院に足を運び、病院関係者に状況を確認しながらスムーズに元の生活に戻れるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・訪問看護師と連携しご家族様と話し合いを行っています。主治医のいるももはクリニックと共に看取り指針を作成し連携を図っていきます。	法人内で「認知症ケアチーム」名づけられた医師（認知症ケア専門医）、作業療法士、看護師、栄養士で構成された物心両面に心強い体制に支えられ、「救急対応はしたくないけど、点滴はしたい」といった要望にも工夫して応えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル・離設マニュアルなどを基に研修を行い備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に数回行っています。通報・消火訓練・発電機の始動・炊き出し訓練等様々な場面を想定し行っています。	消防署職員の立会いが2回 夜間想定1回、土砂災害1回で取組み、回を積んで学んでいます。発電機も備え、壁に貼り付けランタン兼用となる懐中電灯や、投光機も本年度購入しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア行動方針に同項目が設けられており、それに伴う行動を心がけています。お一人お一人の歩んできた人生を尊重し声掛けの方法を変えるなどの対応を行っています。	食事介助では「〇〇さん」と必ず呼びかけ、拘縮があつて箸が握れない人に代わり「次は何がいいですか」と優しく尋ねていたり、何かにつけ怒りたい人にはリフレインで同調して、職員の対応が適切です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようにお客様に選んでいただける声掛けを行っています。また、選択しやすいように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは概ね決まっていますが、その方の状態や希望によって対応をその都度職員間で話し合いながら、その方のペースに合わせられるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけご自身で選んでいただけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒に会話を楽しみながら食べています。ご本人様にお好きなものを聞きながら取り入れるようにしています。盛付けや片付け等お手伝いいただいています。	車椅子使用者が5名、平均介護度3.66となり、食事介助が必要な利用者が4名います。周辺症状による大きな声のでる人もいて穏やかな食卓とは言いがたいものの、一人ひとりの食が進むように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用してバランスの良い食事の提供ができています。摂取状況は毎回確認し、水分はゼリー等で状態を変えて摂りやすいようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自室にて口腔ケアを行い職員が介助しています。1回/週歯科衛生士、1回/月歯科医師の診療があり口腔状況を観察し、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用の方も日中はトイレ誘導して排尿を試みています。気持ちよく過ごしていただけよう心がけています。	独りで自由にトイレに出入りする人が1名いますが、それ以外の人は排泄チェック表の記録をとっています。車椅子を常時使う4名は2人介助となっても「トイレで」を慣行しており、概ね定時介助です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天を使用してゼリーを提供したり体操を行うなどで対応しています。また、漢方薬でお腹の動きを悪くさせないようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2回以上/週入浴できるようにしており、ほぼ1日置きの入浴で希望によっては毎日対応もできます。日替わりの入浴剤や、気分によっては足浴などの対応をさせてもらっています。	週2、ないし3日を目安に入浴日を設け、一人ひとり湯を入れ替え、清潔を保っています。色や香りに変化をもたせる浴剤で楽しみも導入し、また隣りの家の柚子を譲ってもらって変わり湯で話材が膨らむ日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣に合わせて日中テレビを見ながらゆっくりされている方や手作業がお好きで活動されている方がいます。寝る時間も個々の眠くなる時間に合わせて就寝介助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更した際は申し送りを活用し情報の共有と理解をしています。また、往診時に施設での状況を主治医に伝えコントロールできるようにしています。事故防止のために薬ボックスを変更したりと全員で取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆっくり過ごしたい方はその方のペースで生活しています。手先が器用な方が多いので作品作りを行い、完成をみんなで喜んで共有しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様と話し希望を聞きながら毎月季節に合わせた企画を計画しています。天気の良い日には散歩やお買い物へ同行するなどしています。	外出の年度計画は特にはありません。普段の買い物や散歩などのほか、初詣ではおみくじをひいたり、富士宮北高校の桜並木の花見、どんど焼きではお汁粉、豚汁を堪能します。昨年開設した世界遺産センターにも早速出かけました。	昨年度は個別外出がりましたが、今年度は中断してしまったようですので、再開を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かる形をとりながら買い物や外出時に支払いができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望は今はありませんが年賀状などご自分で書いていただきご家族からも返事が来ています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには皆様で作った季節の掲示物が有り壁面にはお客様の写真などを飾り居心地のよい空間にできるよう勤めています。	前回の訪問時には梅雨だったことから蛙でしたが、今回はバレンタインのハートの手作りモールが下がり、また各居室にもこれまで共用空間を彩ってきた時節モールが飾られています。湿度50～60、冬の室温18度～20度と設定数値が示され、温・湿度も快適です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではお客様同士話している姿が見られます。席を移動して近くに行って話すなどの行動も見られています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などをご持参頂きご本人様の安心に努めています。また、写真を飾るなどご本人様・ご家族様がお好きなようにレイアウトされその方にあつた空間を作っています。	調査当日は入居手続きをおこなう利用者とその家族もいて、「これが必要、あれも」といった話し合いを在宅での介護支援専門員も交えて引き継ぎをおこなう中、新たな環境への溶け込みに十二分に気遣っていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いフロアを活かしてホール歩行や運動しやすい環境となっています。居室で過ごす際の安全についてはその都度職員で話し合いながら対応しています。		